

# 第1回 日下川新規放水路施工技術検討部会

## 議事録

令和元年9月～10月（持ち回り開催）

### 1. 会長選出について

#### ○全委員

原委員の会長選出が全委員に承認される。

### 2. 日下川新規放水路の施工技術等の検討に関する意見

#### ○原委員

事前の調査から、大規模な事象はある程度予測がつくが、施工中に生じる突発的な肌落ちや湧水など、細かな事象の予測は困難である。複雑な地質・地盤の不確実性を考慮し、掘削過程で把握される情報を踏まえて安全に留意し施工する必要がある。

#### ○事務局

地質・地盤の不確実性に考慮し、安全に留意して施工を進めたい。

#### ○岡田委員

今後掘削を行う区間について、リスクの不確実な点は理解できるが、ある程度の幅を持たせてでも、これまでの施工実績や技術的な観点から想定されるリスクについて示していただきたい。

#### ○事務局

対応について検討する。

#### ○島委員

削孔検層について、今後リスクの高い区間について一定長でラップさせて施工していく事は、安全上良いことである。

また、事務局より説明のあった、「掘削時の地質状況が設計時の想定と異なり、複雑な地質構成になっている」及び「設計と実績の地質のずれ」は確かにそのように感じる。やはり、トンネル工事は掘ってみないと分からないということか。

このような工事では、施工困難な地質が出てきても、安易に新たな技術や考え方に走るのではなく、当初想定していた支保や補助工法の考え方を尊重すべき。

#### ○事務局

既存の考え方を尊重して現在掘削を進めてきているところ。

○近藤委員

湧水量が多く発生している箇所、肌落ち・小崩落が発生している箇所が複数あるが、その箇所で補助工法が必要だったところと、補助工法無しで施工が進めているところがあるので、何故違いが生じたのか確認すると良い。

○事務局

実態を確認し、整理することを検討する。

○近藤委員

地質・地盤リスクマネジメントの考え方に従い、近くの層の情報を踏まえたゾーニング図（仮称）を作成するなど不確実性、不均質性を考慮した地盤の捉え方を検討すべき。

○事務局

次回会議において地質・地盤の不均質性を踏まえたゾーニング図（仮称）を提示させて頂き、それをもとに未施工区間のリスクマネジメントの考えを示すこととする。

○近藤委員

削孔検層の拡充については、頻度及び施工長をよく検討すること。拡充箇所は、既に指摘していた地質・地盤の不確実性等を考慮して検討すると良い。

(参考) 開催日

・令和元年 9月 30日 原 忠 委員

・令和元年 10月 2日 岡田 将治 委員

・令和元年 10月 3日 島 弘 委員

・令和元年 10月 7日 近藤 益央 委員